

2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月11日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 2021年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	57,683	△25.2	△4,330	—	△7,735	—	△18,398	—
2020年12月期第3四半期	77,142	△17.5	7,802	463.2	△394	—	△6,813	—

（注）包括利益 2021年12月期第3四半期 △20,904百万円（-%） 2020年12月期第3四半期 500百万円（-%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	△237.45	—
2020年12月期第3四半期	△87.74	—

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第3四半期	561,612	336,673	59.9	4,344.31
2020年12月期	568,502	357,577	62.9	4,614.09

（参考）自己資本 2021年12月期第3四半期 336,614百万円 2020年12月期 357,519百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00	—	—	—
2021年12月期（予想）	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2021年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期3Q	80,195,000株	2020年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	2,710,978株	2020年12月期	2,710,772株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期3Q	77,484,108株	2020年12月期3Q	77,660,406株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(4) 追加情報	9
(5) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2021年12月期 第3四半期累計	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 四半期純損益
個別 (百万円)	36,613	△1,964	△2,761	△3,922
連結 (百万円)	57,683	△4,330	△7,735	△18,398

遊技機事業においては、前四半期連結累計期間に、「SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～絆」のゲーム性を継承し、6号機としての新たな要素を加えた『SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～絆2』を48,526台、ユーザーやホールから高い評価を得ている沖ドキ！シリーズの最新作『沖ドキ！2-30』を47,313台販売したことなどから、合計で125,325台を販売しました。一方、当四半期連結累計期間においては、現在、市場で稼働しているパチスロ機の主要タイトル約60万台が、当連結会計年度の第4四半期から来期の第1四半期にかけて入替が予定されていることから、当連結会計年度の当社の製品販売も、その期間に集中して主要タイトルを市場に投入する戦略に基づいて行っております。その結果、当四半期連結累計期間の販売台数は、前四半期連結累計期間の125,325台から82,003台となりました。

また、統合型リゾート(IR)事業においては、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的として、ゲーミング事業は座席数の50%を上限とし操業していたことから、売上高は前四半期連結累計期間並みとなりました。一方で、従業員の20%以上の人員削減を行い人件費が減少し、操業の制限に伴い販管費も減少しました。また円安ドル高の進行によって為替差益を計上、土地売買契約の解約による繰延税金資産の取り崩しによって法人税等調整額の計上を行っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は57,683百万円（前年同期比 25.2%減）となりました。営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失については、当四半期連結累計期間において、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における営業停止した施設の当該期間に係る固定費（減価償却費等）を7,046百万円販売費及び一般管理費から特別損失に振替したことから、営業損失は4,330百万円（前年同期 営業利益7,802百万円）、経常損失は7,735百万円（前年同期 経常損失394百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は18,398百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失6,813百万円）となりました。

①遊技機事業

当第3四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は35,188百万円（前年同期比 36.7%減）、営業利益は4,946百万円（前年同期比 77.5%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルスワクチン接種の進展による、経済活動の段階的な再開に伴う個人消費の増加が期待されていましたが、新型コロナウイルス変異株が拡大し、複数の都道府県に再度緊急事態宣言が発令された影響もあり、期待された増加には至りませんでした。遊技機業界においては、パチンコホールは感染症対策を講じつつ営業を続けているものの、集客並びに稼働の回復には至らず、依然として厳しい経営環境のもとでパチンコホールの新台入替に対する慎重な姿勢が続き、遊技機の市場供給は低調に推移しました。

かかる状況下で当社は、パチスロ機においては、根強いファンの多いハナビシリーズ最新作『新ハナビ』、長期稼働を記録し、ホールやユーザーから高い評価を得ていた「SLOT魔法少女まどか☆マギカ」の正統後継機『SLOT劇場版 魔法少女まどか☆マギカ[前編]始まりの物語/[後編]永遠の物語』等の導入を行いました。またパチンコ機では、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの不朽の名作ゲームをモチーフとした『Pナムココレクション』の導入を行いました。なお、上記のパチスロ2機種については、第3四半期連結会計期間内のすべてのパチスロ販売機種の中で上位の販売台数となりました。

②統合型リゾート(IR)事業

当第3四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は21,707百万円（前年同期比 5.6%増）、営業損失は2,541百万円（前年同期 営業損失7,624百万円）となりました。また、当第3四半期における調整後EBITDA⁽²⁾は1,903百万円（前年同期 △2,758百万円）となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」のあるフィリピンでは、当第3四半期に、政府による新型コロナウイルス感染症対策に係る規制により運営が制限されました。

2021年8月5日、フィリピン政府は、翌6日よりマニラ首都圏を最も規制の厳しい「強化されたコミュニティ隔離措置(ECQ)」とし、一時経済活動を停止すると発表しました。また9月14日には、マニラ首都圏において9月16日から実行される新たな新型コロナウイルス感染症対応のための警戒レベル・システムを示しました。これは、警戒レベルを1～5段階に設定したもので、最も規制が強化されるのがレベル5となります。マニラ首都圏は9月末まで警戒レベル4に設定され、内容は次の通りです。①カジノ運営は座席数の50%を上限とする。②レストランの店

内飲食は当初10%が上限であったが、20%を上限とし屋外飲食は30%を上限とする（店内飲食については、オカダ・マニラのように衛生管理の認定を受けたレストランは上限30%で運営が可能。ただし新型コロナウイルスワクチン接種を2回完了した方のみ。また屋外飲食については、衛生管理認定を受けたレストランは上限40%で運営が可能、ゲストに対して新型コロナウイルスワクチン接種が2回完了の要件はない）。③ホテルの一般ゲストの宿泊は禁止。以上のような厳しい規制に基づき運営いたしました。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は667百万円（前年同期比 28.3%減）、営業損失は79百万円（前年同期 営業利益188百万円）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、『新ハナビ』『SLOT劇場版魔法少女まどか☆マギカ前後編』のシミュレータアプリをApp Store・Google Playにて配信いたしました。いずれも有料アプリ・ゲーム・カジノカテゴリーでダウンロードランキング1位を獲得するなど大変好評をいただいております。また、ソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、弊社パチスロ機をモチーフにした『デュエルドラゴン』を配信し、オリジナリティ溢れる多種多様なビデオスロットが全48機種となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産の額は、現金及び預金の減少、持分法適用会社への貸付金の一部回収による減少、持分法適用会社の株式売却、土地売買契約の解約による繰延税金資産の取り崩しによる減少があった一方、建設投資に伴う建設仮勘定の増加、持分法による投資利益の増加による関係会社株式の増加により、前連結会計年度末に比べて6,890百万円減少し561,612百万円となりました。

総負債の額は、円安ドル高の進行による社債、長期借入金の増加、土地リースに関する未払費用の増加により、前連結会計年度末に比べて14,014百万円増加し224,939百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて20,904百万円減少し336,673百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界では、2022年1月末の旧規則機の撤去期限が迫り、パチンコホールの新台入替に対する購買意欲は徐々に高まる事が予測されます。パチスロ機においては、規制の緩和に伴い、新たなゲーム性を搭載した新基準6.2号機の開発、導入を開始しており、ユーザーに支持されるヒット機種の登場が期待される状況にあります。

第4四半期の見通しとして、パチスロ機においては、初の遊技機化となるアニメとのタイアップ機『SLOTタワー・タトゥー』、多くのファンに支持される「A PROJECT」最新作『CCエンジェル』の導入を開始しております。また、シンプルなゲーム性とユーザーも納得の出玉感を兼ね備えた『泡盛』、沖ドキ！シリーズの最新作であり、新基準6.2号機『沖ドキ！DUO』の販売を開始しております。パチンコ機においては、株式会社カプコンの人気ゲームをモチーフとした『Pデビルメイクライ4 クレイジーバトル』の販売を開始しております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努めてまいります。またその魅力ある遊技機を通して、遊技機業界全体の活性化に貢献してまいります。

(ご参考) 2021年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期(受注見込)
販売台数(台)	12,708	19,429	49,866	44,800

(注) 第3四半期までの実績については、「2021年12月期 第3四半期決算補足資料」

(<https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

フィリピンにおいても新型コロナウイルス感染症の影響は依然収束していませんが、オカダ・マニラは一定の制限のもとで一部営業を継続しております。10月16日より警戒レベルが4から3へ、さらに11月5日からはレベル2に緩和されたことにより、①カジノ運営は座席数の90%を上限とする。②レストランの店内飲食は80%を上限とし屋外飲食は100%を上限とする。③ホテルの一般ゲストの宿泊は全面再開。等の規制緩和に基づく運営が始まっております。引き続きフィリピン政府の発表を注視しながら、感染防止の観点から衛生管理を高い水準で維持してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き高品質なシミュレータアプリや楽曲の配信を行ってまいります。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、コンテンツを拡充することで新規会員を獲得し、多彩なイベントの開催と機能改善及び新規施策の追加を行って既存会員の満足度向上に努めてまいります。さらには、各種ゲームプラットフォームへの展開並びにコンテンツのライセンスアウトを積極的に行ってまいります。

(4) 連結業績予想について

当社は、2021年12月期の連結業績を未定としております。なお、業績に重要な影響を及ぼす統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」を運営するTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC. の2021年12月期第3四半期実績(速報値)を開示しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,349	26,469
受取手形及び売掛金	7,369	10,142
有価証券	2	883
商品及び製品	2,367	2,146
仕掛品	11,866	12,741
原材料及び貯蔵品	9,653	9,209
その他	15,591	12,135
貸倒引当金	△2,599	△2,633
流動資産合計	81,601	71,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	260,664	259,192
建設仮勘定	70,346	76,584
リース資産(純額)	54,889	54,095
その他	37,417	34,261
有形固定資産合計	423,317	424,134
無形固定資産		
その他	1,969	1,736
無形固定資産合計	1,969	1,736
投資その他の資産		
投資有価証券	16,762	17,797
長期預け金	6,413	6,922
関係会社長期預け金	25,125	27,167
その他	13,038	12,504
貸倒引当金	△696	△714
投資その他の資産合計	60,644	63,676
固定資産合計	485,931	489,546
繰延資産	969	970
資産合計	568,502	561,612

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,960	6,500
短期借入金	10,927	5,597
1年内返済予定の長期借入金	2,070	3,008
未払金	9,247	10,021
未払費用	15,484	19,392
未払法人税等	463	31
賞与引当金	81	282
その他	13,125	10,654
流動負債合計	57,361	55,488
固定負債		
社債	78,720	87,842
長期借入金	7,141	10,803
退職給付に係る負債	167	234
関係会社長期預り金	5,175	5,597
リース債務	59,209	60,691
その他	3,148	4,280
固定負債合計	153,563	169,450
負債合計	210,924	224,939
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,829	18,829
利益剰余金	346,478	328,080
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	358,088	339,689
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△27	107
為替換算調整勘定	△631	△3,272
退職給付に係る調整累計額	88	90
その他の包括利益累計額合計	△569	△3,075
新株予約権	58	58
純資産合計	357,577	336,673
負債純資産合計	568,502	561,612

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	77,142	57,683
売上原価	33,135	30,251
売上総利益	44,007	27,431
販売費及び一般管理費	36,204	31,762
営業利益又は営業損失(△)	7,802	△4,330
営業外収益		
受取利息	92	77
受取配当金	16	7
持分法による投資利益	1,127	971
為替差益	—	3,555
その他	86	76
営業外収益合計	1,323	4,687
営業外費用		
支払利息	3,152	3,344
社債利息	4,515	4,522
為替差損	1,677	—
支払手数料	18	9
その他	157	215
営業外費用合計	9,520	8,092
経常損失(△)	△394	△7,735
特別利益		
固定資産売却益	7	—
その他	5	0
特別利益合計	13	0
特別損失		
固定資産除売却損	2	490
臨時損失	6,811	7,046
その他	—	185
特別損失合計	6,814	7,722
税金等調整前四半期純損失(△)	△7,195	△15,457
法人税、住民税及び事業税	455	24
法人税等調整額	△837	2,916
法人税等合計	△382	2,940
四半期純損失(△)	△6,813	△18,398
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,813	△18,398

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△6,813	△18,398
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△178	134
為替換算調整勘定	7,493	△2,641
退職給付に係る調整額	△0	1
その他の包括利益合計	7,313	△2,505
四半期包括利益	500	△20,904
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	500	△20,904
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当する事項はありません。

(会計方針の変更)

該当する事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当する事項はありません。

(連結損益計算書注記)

臨時損失

当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を背景とした、フィリピン政府や、フィリピンカジノ運営公社PAGCOR (Philippine Amusement and Gaming Corporation)の要請に基づき、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における営業停止した施設の当該期間に係る固定費(減価償却費等)を、特別損失に計上したものです。

(4) 追加情報

借入費用の取得価額算入

統合型リゾート(IR)事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する借入費用を取得価額に算入しております。

会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、遊技機事業においては、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明なことから、新台入替に対する慎重な姿勢は依然として続いており、パチスロ・パチンコ機の市場供給は低調に推移している、という影響を受けております。統合型リゾート(IR)事業においては、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための各種制限等の影響を受けております。

新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明ではありますが、少なくとも2021年度中は一定の影響が続くものと仮定し、一定の仮定のもとで会計上の見積りを会計処理に反映しております。なお、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響は不確実性が高く、状況に変化が生じた場合には当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 重要な後発事象

(当社子会社の26 Capitalとの合併契約の締結)

当社の香港連結子会社であるTiger Resort Asia Limited(以下、「TRA」といいます。)等の取締役会において、当社のフィリピン子会社であるOKADA MANILA INTERNATIONAL INC.(以下、「OMI」といいます。)が米国ナスダック市場(以下、「NASDAQ」といいます。)のNASDAQ Capital Marketに上場する特別買収目的会社(以下、「SPAC」といいます。)である26 Capital Acquisition Corp.(以下、「26 Capital」といいます。)と本合併(以下に定義します)を行いNASDAQ上場することを目的とし、①26 Capitalを存続会社、OMIの米国完全子会社であるProject Tiger Merger Sub, Inc.(以下、「Merger Sub」といいます。)を消滅会社とする逆三角合併を行うこと(以下、「本合併」といいます。)、及び②本合併に関して、TRA、TRAのフィリピン連結子会社であるTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.(以下、「TRLEI」といいます。)、OMI及びMerger Subが、26 Capitalとの間で、Agreement and Plan of Merger and Share Acquisition(以下、「本合併契約」といいます。)を締結することを決議、2021年10月15日に本合併契約を締結いたしました。

1. 取引の概要

(1) 被合併法人

26 Capital Acquisition Corp. (NASDAQ Capital Marketに上場する特別買収目的会社)

(2) 合併の目的

当社のフィリピンにおける統合型リゾート(IR)事業につきましては、2016年12月に一部営業を開始して以来着実に業績を伸ばしてまいりました。しかしながら、2020年3月以降現在まで、新型コロナウイルスの感染拡大によりマ

ニラ市内では度重なるロックダウンが実施されるなど非常に限られた条件のもとで営業を行ってまいりました。

このような厳しい環境下において懸案であった固定費の削減、マーケティングの強化など、収益力強化のための様々な施策を展開するとともに、コーラルウィング（タワーB）のホテル建設を進め本年度内には完成の見込みです。こうした施策や施設拡充は新型コロナウイルス感染症の収束後も継続し、今後の事業価値増大につなげていく所存です。

こうした状況を踏まえ、当社といたしましては、統合型リゾート（IR）事業をグループの中核事業と位置づけ、そのさらなる事業拡大と企業グループ価値の増大及びそのための資金調達手法や調達先の多様化のため、OMIのNASDAQへの上場を目的とした本合併を行うことといたしました。

(3) 合併予定日

2022年6月末まで（予定）

(4) 合併の方式

本合併において、OMIは買収子会社としてMerger subを設立しており、Merger subを消滅会社、26 Capitalを存続会社とする逆三角合併によって、OMIが26 Capitalの親会社となるスキームでDe-SPACを実行することとなります。

(5) その他

本合併の実行前に、TRLEIをOMIの完全子会社とする組織再編を行う予定です。また本合併は、26 Capitalの株主の承認、本合併に伴って発行されるOMIのAmerican Depositary Share（以下「ADS」といいます）及びOMIの新株予約権がNASDAQに上場することの承認が得られていること、OMIのADS及びOMIの新株予約権の発行に関する米国証券法上の登録書類の効力が発生していること、本合併前組織再編の完了等の充足を必要とします。